

「2020東京オリンピック・パラリンピック」に関連する現在の取組（知事部局）

I オリ・パラ普及・教育推進事業

（環境生活部事前キャンプ・大会競技支援課）

千葉県で開催される競技について、体験イベント等を開催するとともに、県内公立中学校においてJOCオリンピック教室を実施する。

【平成29年度の主な実績】

- ①「パラスポーツフォーラム in CHIBA」
⇒ 旭市総合体育館でH29.11.29に実施。約600名が参加。
- ②競技普及の担い手育成
⇒ 県内大学の教員志望の学生や、障がい者スポーツ指導員等を対象に、県内開催パラ競技の研修や体験会を実施。学校教育やパラ競技普及事業等において、指導者やサポートスタッフとして活動できる人材を育成。
- ③県内開催競技団体と連携した普及事業（日本フェンシング協会による学校訪問）
⇒ 松戸市（小中各1校）、流山市（小1校）の3校で学校訪問を実施。
- ④JOCオリンピック教室
⇒ 県内の中学校でオリンピック出場者・経験者が授業を実施。



パラスポーツフォーラムの様子
(千葉県Webサイトより) ↑

【平成30年度の主な予定】

- ①本県開催競技の普及・振興イベント実施
⇒ 機運醸成イベントやパラリンピック競技の普及イベント等を実施する予定。県内開催競技団体と連携した普及事業ではフェンシング以外の競技団体も学校訪問を行う予定。
- ②JOCオリンピック教室
⇒ 県内6中学校（千葉・葛南・東葛飾・北総・東上総・南房総）でオリンピック出場者や経験者が授業を行う予定。

II オール千葉おもてなし推進事業（商工労働部観光企画課）

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を2年後に控え、千葉県を訪れる多くの方々が「また千葉県に行きたい」と心から思えるよう、オール千葉での「おもてなし」の機運を加速するための取組を行う。

【平成29年度の主な実績】

- ①おもてなしのレベルアップに向けた先進的な取組事例の調査
⇒ おもてなしに関する取組事例調査等を参考に、おもてなしの心を伝えるための留意点、本県が今後取り組む事柄（情報発信等）を整理。
- ②リーフレットの作成・配布
⇒ 上記調査の結果を踏まえ、啓発用の冊子「おもてなしリーフレット」を25,000部作成して、県民・事業者・市町村等に広く配布。
- ③啓発用ノベルティの製作
⇒ 機運醸成のための「おもてなしステッカー」や「おもてなしピンバッジ」（右図）を10,000個製作。
- ④シンポジウムの開催
⇒ H30.3.22に千葉県教育会館で開催（右上図）。約270名が参加。



【平成30年度の主な予定】

- ①おもてなし事例等の調査に基づくリーフレットの作成
⇒ オリ・パラの開催年において、ボランティア活動等の中心として活躍を期待できる世代である、県内の高等学校等の生徒及び教員に配付予定。
- ②「おもてなしステッカー」「おもてなしピンバッジ」等の啓発グッズを配付予定。
- ③おもてなしシンポジウム等の開催
⇒ 優れたおもてなしを実践している事業者等を講師として招聘し、地域別に3回、経済観光分野別に1回、計4回実施する予定。

III オリ・パラに向けたボランティアの確保・育成事業

（環境生活部県民生活・文化課／総合企画部国際課／商工労働部観光企画課）

オリ・パラの開催を見据え、千葉を訪れる外国人観光客等へのおもてなしの充実に向けて、ボランティア育成に取り組む。

【平成29年度の主な実績】

- ① 通訳ボランティア養成講座（国際課）
⇒ 日常会話程度の語学力を有する方を対象。駅や空港、事前キャンプ地等で外国語対応を行う人材を養成（約210人が受講）。
- ② 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座（県民生活・文化課）
⇒ 外国人を見かけた際に、簡単な単語やフレーズ、ジェスチャー等を用いて道案内の手助け等をする人材を育成（約1,000人が受講）。
- ③ 外国語観光ボランティアガイド養成講座（観光企画課）
⇒ 主に観光ボランティア団体で活動する方を対象。観光地で外国人に対応する人材を養成（約80人が受講）。

【平成30年度の主な予定】

- ①通訳ボランティア養成講座の開催
- ②外国人おもてなし語学ボランティア育成講座の開催
- ③外国語観光ボランティアガイド養成講座の開催
- ④都市ボランティアの募集【新規】
⇒ 大会時に会場周辺駅や空港等で国内外からの旅行者に対する交通・観光案内を行う人材を募集（①～③も一部含む）。

「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」のリーフレット（千葉県Webサイトより）→

